

NPOワンポイントアドバイス!!

～上手な会議の終わり方～

せっかく良い議論をしても、会議の終わり方が悪く、それまでの議論が無駄になってしまうことがあります。「じゃあ、そういうことで」で終わるのではなく「終わりよければ、すべてよし」の会議のコツをお伝えします。

●何がどこまで決まったか?

進行役から、今回の会議で「何が、どこまで決まったのか?」あるいは、「ここまでしか決まらなかったので、次回はどうするか」等を具体的に話してもらい、確認し合いましょう。

●誰がいつまでにするか?

決定した内容に沿って、「それを実行するのは誰」で、「いつまでにやるか」を明確にしましょう。担当になった各自から「私が、〇〇までに□□をします」というように一通り発表してもらうと、より実行が確実なものになります。

●お仕事リストをつくる

各自が発表したものを一覧表にしてメールや掲示物などで示し、関係者全体で情報共有できるようにしましょう。さらに順次、進捗状況を書き加えていくと、現状が常に確認できるようになります。

●次の予定を確認

次回の会議の日時、場所、到達目標点等を決めましょう。特に日時については、ある程度先まで決めておくほうが効率的な場合もあります。

●会議の進行をふりかえる

時間があるようでしたら、会議の進行そのものを振り返ってみましょう。意見は言いやすかったか?分からぬ部分はなかつたか?板書は見やすかったか?などを振り返ることで、会議の質が向上していきます。

〈参考:青木将幸著『市民の会議術 ミーティング・ファシリテーション入門』〉

まちづくりセンターでは、会議の進め方の相談にも応じています。お気軽におこしください。



センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤 競

岡壇(おか むねみ)著『生き心地の良い町』という、日本で最も自殺率の低い町について書かれた本を紹介します。舞台となった徳島県南部の小さな田舎町には、町民たちのユニークな人生観と処世術によって、生きづらさを取り除いていく風土ができます。

その主な特徴は、「いろんな人がいてもよい、いろんな人がいたほうがよい」

という多様性の受け入れがあり、職業や学歴・家柄等にとらわれず「人物本位主義」をつらぬき、「どうせ自分なんて」というような悲観的な気持ちを持たず、悩みや問題を抱いたらすぐに打ち明け相談し、お節介なくせにドライな「ゆるやかなつながり」を大切にすること。そして、失敗を容認する「やり直しのきく生き方」を誰もが認めていると同時に、年長者は積極的に若者に役割を持たせ、同等な立場での発言を促していくそうです。年長者が若者の意見を封じ込めたり活動を押さえ込むことは「野暮なこと」なので、誰もしません。

ここに上げた要素は、まちづくりはもちろん、組織をつくっていくうえでも大いに参考になるような気がします。あなたもご一読いかがですか?